

広島で国連軍縮会議 学会代表が出席

2017年12月1日

第27回「国連^{ぐんしゆく}軍縮会議」が11月29、30の両日、広島市内で開催され、創価学会平和委員会の石渡議長、河合事務局長が参加した。

同会議は各国の政府関係者や軍縮の専門家が出席し、「核兵器のない世界」実現への道りを議論するもの。

2日間で五つの分科会が開かれたほか、参加者による原爆死没者慰霊碑への献花や平和記念資料館の見学、被爆体験の聴講^{ちようこう}が行われた。

29日の「軍縮・不拡散教育」をテーマに

した分科会では、質疑応答で同委員会から発言。軍縮・平和教育による新たな安全保障^{がいねん}概念の構築の可能性について指摘した。

国連軍縮会議に先立つ28日午前には、日本政府主催の「賢人会議」と核兵器^{はいぜつ}廃絶日本NGO連絡会との意見交換会が行われた。

席上、同連絡会の一員として同委員会が発言し、人々が相互依存する社会にあつて、“他人の不幸^{みずか}の上に自らの幸福^{きず}を築く”ことが可能か否かを問うべきと強調。誰もが抱く“大切な人を守りたい”という普遍^{ふへん}の願いに基づき、今こそ核抑止論からの脱却^{だっきやく}をと呼び掛けた。

また、同日午後に行われた同連絡会と中満^{なかみつ}国連上級代表との懇談会にも、同委員会が出席した。



広島市で行われた国連軍縮会議。国連、政府関係者、市民社会の代表らが参加し、2日間にわたり活発に議論が交わされた（29日）